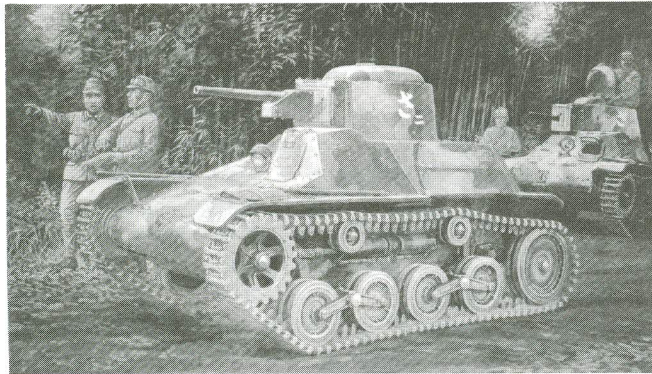


帝国陸軍九七式軽装甲車 テケ (戦車砲装備)

IMPERIAL JAPANESE ARMY LIGHT ARMORED CAR TYPE 97 "TEKE" (37mm TANK GUN)



1 : 35 FM-10

BY THE LANE
FineMolds

より強力な豆タンクを目指して

支那事変において弾薬運搬、捜索等を目的として開発された九四式軽装甲車が、全備重量でも3.5トンというコンパクトな車体を生かして小回りの効く豆戦闘車両として活躍した。しかし、戦車として使われる場合には車載重機のみでは火力不足であり、小口径砲を積んだ後継車両が望まれたのである。

新車両は機銃装備車と同時に九四式37ミリ戦車砲を装備したものが開発され、九四式軽装甲車に比べて車体と砲塔も大型化された。車体形状も避弾経始が考慮され、曲面と傾斜された装甲板とで構成され、小銃弾に対する耐性を増すことを考慮していた。

砲塔の構造

各所に細かな配慮が見られる造りとなっているが、いくぶん大型になったとはいえ、小さな砲塔に九五式軽戦車と同じ砲を積み、しかも砲手である車長が少しでも作業がしやすいような配置となっていた。

砲自身は車体中心線上に位置するものの、まず砲塔の右寄りに砲を据え、しかも砲塔が正面を向けた時に砲自身が斜めに置かれているために、車長が目標に砲を向けた時に射撃できる空間が確保されていた。また車体のシュルエットを抑えたためと思われるが、砲塔上部の車長用ハッチ部分は低い砲塔に車長の頭部、及び車載重機の弾倉部分をクリヤーするためだけにその部分だけ膨らみを持たせるものになっていた。

砲手である車長は常に砲の左側に位置するため、砲塔を回転する旋回ハンドルや砲塔を固定する駐転機も左側に位置し、また砲塔内部の砲弾ラックはスペースの問題から砲の右斜め後ろに位置していた。そして左右、砲塔後部ハッチには展望窓が取り付けられ、左部分と後部ハッチ、及び車長用ハッチにはピストルポートも取り付けられ、近接戦闘に備えていた。

九四式37ミリ砲と車体について

九四式戦車砲は初速600m/sで射程距離300メートルで45ミリの鋼板を貫通し、のちに装備されたと思われる九八式戦車砲は砲身長を同じで薬室を延長したもので、初速700m/s、射程距離500メートルで25ミリの鋼板を貫通した。砲弾は102発積み入れ砲塔内、車体戦闘室左右の弾薬ラックに納められた。

また砲の操作は砲に付けられた肩当により、人力で操作されて目標に向けられた。

日本の戦車では操縦席は車体の右側に位置する車両が多いが、この車両では車体の左側にあった。想像するに砲手と砲の関係から、連絡が取れやすいようにその位置になったと思われる。操縦席も車体なるべく小さくまとめたので、操縦席の上半身を覆うように装甲板が突出して取り囲み、右側の覗視孔、前扉、左側の覗視窓を外を見ながら操縦した。また車両無線器も積まれていたようであるが、全ての車両にあったかどうかは不明である。おそらく車両無線器71型も搭載されたと推定される。

佐伯挺身隊の活躍

大東亜戦争初期の進攻作戦では軽量な車体を生かして、いち早く揚陸され上陸部隊の拠点作りに活躍した。中でもマレー作戦では佐伯静雄中佐率いる捜索第5連隊を中心とした佐伯挺身隊の活躍が特筆されよう。

開戦と同時にシンゴラ上陸後、松井第5師団長は捜索第5連隊にまず国境に向けて進出させた。捜索第5連隊は、九七式軽装甲車2個中隊(1個中隊につき8両の九七式軽装甲車)と乗車歩兵2個中隊とで編成されていた。

佐伯連隊長はまず徒歩2中隊、自転車50をもって行動を開始し、上陸後1日で70キロを突破し、途中から追いついた装甲車、自動車をもって翌9日には装甲車を先頭にタイ・マレー国境に向けて前進し、その日の夜には国境に達し、徒歩2個中隊をもって威力偵察を行ったのち、10日早朝には国境陣地を占領した。更に佐伯連隊長は「強力な挺身隊を編成し歩兵部隊による突破口から敵と混じって急進し、道路橋梁の破壊の余裕を与えないよう、一意突進する戦法こそ最良である。」と辻参謀に述べた。今までの実績により、旅団長の裁可を経て、捜索第5連隊、戦車第1連隊第3中隊他からなる佐伯挺身隊が編成された。

大東亜戦争始まって最初の陣地突破とあって、全軍の注目のなかで作戦は進められた。11日、強力な敵陣地を突破する必要から、戦車中隊を先頭に進み、アース付近で休息中のインド第11師団を一方的に攻撃し、続いて、ジットラ陣地攻撃に移るが、挺身隊では簡単な単なる陣地であると判断して、戦車と山砲に支援射撃を命じ、合計2個歩兵中隊による夜襲を行った。

しかし敵の強力な反撃に阻まれ、夜明けまでに陣地の一角を占領したにとどまり、軽装甲車の車載重機を降ろして乗員による徒歩戦闘を行った。一進一退を繰り返しつつ、戦闘に加入した歩兵・砲兵1個大隊と共に戦い、敵の戦線からの撤退により、陣地を突破することができた。敵が撤退を始めた時間は諸説あるものの、佐伯挺身隊581名のうち、200名近い死傷者を出しながらも約6000名が守る陣地をうち破ったのである。

<諸元>

発動機	空冷直列4気筒ディーゼル	Engine	Aircooled Disl engine inline four
出力	65HP/2300r.p.m	Out put	65HP/2300r.p.m
全長	3.70m	Overall length	3.70m
全幅	1.90m	Overall width	1.90m
全高	1.79m	Overall height	1.79m
全部重量	4.5t	Total weight	4.5t
乗員	2名	Number of crue	2
最大速度	40km/h	Max speed	40km/h
装甲	砲塔前面、車体前面12mm	Armor plate	Infront of Gun turret and body,12mm
武装	九四式37ミリ戦車砲×1 (九八式)又は 九七式7.7ミリ車載重機×1	Armament	Type94 37mmTank Gun×1 (Type98)or Type97 Tank MG×1

<資料協力:高荷義之氏>

